

国語部会	学校名	ひたちなか市立外野小学校
	職・氏名	教諭 飯村 真由美

I 部会の研究テーマ

付きたい力を明確にし、言語活動を適切に位置づけた授業づくり

<実践事例 第2学年>

1 単元名

本はともだち ミリーのすてきなぼうし

2 目標

- マイフィリップを作るために興味をもって本を読もうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動を中心に場面の様子を想像しながら読むことができる。(読むこと)
- マイフィリップを作るという目的をもって、本を読むことができる。(読むこと)
- 語句を変えることによって、言葉には意味のまとまりがあることに気づくことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

3 単元設定に当たって

本単元の指導に当たっては、文学的文章「スイミー」の単元において、場面の様子や登場人物の行動に焦点をあて、想像を広げながら読んできた。その力を生かして、マイフィリップ(本の紹介カード)作りに生かし、読書活動への関心を高めることをねらいとした。マイフィリップ(本の紹介カード)作りにおいては、叙述に即して登場人物の行動を中心に想像を広げることが重要であり、自分の選書した本のお気に入りの場面や文を選び、書き抜くという活動が展開される。これは、国語科学習指導要領解説(国語編)での主たる言語事項は「カ 楽しんだり、知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと」であり、「読んだ本について、好きなところを紹介すること」の言語活動に相当する。

この言語活動を通し、紹介したい本を選書する能力を育て、読む目的(紹介カード作り)を意識して本や文章を選び、単元全体を児童が見通しをもった読書活動を展開していけるようにしたい。

4 指導と評価の計画(10時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	1	1 既習教材の読み聞かせを聞き、フィリップ作りのモデルを確認する。	○ 「スイミー」を取り上げ、教師の作成したフィリップを提示し、イメージをもたせる。 ○ どの場面にも不思議なところ、おもしろいところがいっぱいあるという感想を取り上げ、詳しく読んでいく見通しをもちやすくする。	【関】「ミリーのすてきなぼうし」に関心をもち、進んで感想を交流しようとしている。[発表] 【読】自分の心が動いたところはどこか必要な場面を選択して読み返している。[観察・発表] 【言】言葉の意味をまとまりを考えて語句を置き換えている。[発表]
	2	2 「すきな本でマイフィリップを作ろう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。		
	3	3 「ミリーのすてきなぼうし」を読み、初発の感想を交流する。		
2	4	4 不思議なところ・おもしろいところ」に目を向けて、物語前半を読む。	○ 「不思議なところ」「おもしろいところ」にラインを引き、理由を書きこみながら、読み進められるようにする。 ○ 自分が特に不思議だと感じたりおもしろいと感じたりしたところなどのお気に入りの文章を選択し、フィリップを作れるようにする。	【関】登場人物のどの行動や出来事が心に残ったのかを考えながら、読もうとしている。[観察] 【読】登場人物の言動に注目し、ミリーの豊かな想像によって起こる不思議なことを読み味わっている。[観察・ノート] 【言】言葉の意味をまとまりを考えて語句を置き換えている。[発表]
	5	5 不思議なところ・おもしろいところ」に目を向けて、物語後半を読む。		
	6	6 マイフィリップの作り方を知り、「ミリーのすてきなぼうし」でフィリップを作る。		
	7	7 グループで「お話交流会」を行う。		
3	8	8 朝読書など読書活動で読んだ本の中で紹介したい本を1冊選び読む。	○ 図書室での読書や朝読書の中で、気に入った作品を選んでフィリップ作りができるようにする。 ○ グループで「お話交流会」を行い、色々な本の楽しさを味わうことができるようにする。	【関】フィリップを作るために楽しんで本を読もうとしている。[観察] 【読】フィリップを作るために本を選んで読んでいる。[観察] 【言】言葉の意味をまとまりを考えて語句を置き換えている。[発表]
	9	9 選んだ本の「マイフィリップ」を作成する。		
	10	10 大好きな本の「お話交流会」を行い、読書交流を楽しむ。		

6 本時の展開

(1) 目標

- 自分の選んだ本の好きなどころについて,自分の知識や経験,読書体験と関わらせながら読み, 本についての自分の思いをフリップにまとめ紹介することができる。(読むこと)

(2) 準備・資料

- ・フリップ(画用紙), カード(3種類), 選んだ本(各自), グッドモデル(掲示用)
- ・拡大資料(語彙表), 交流用付箋紙

(3) 展開

学習内容・活動	支援の手立て(○全体・個人)と評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。 【一斉】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大すきな本のマイフリップ(本のしょうかいカード)をつくり, しょうかいしよう。</p> </div> <p>2 フィリップ作りをする。 【個人】</p> <p>(1) 観点別カードの作成をする。</p> <p>ア 本の名前</p> <p>イ あらすじ</p> <p>ウ お気に入りの文</p> <p>エ お気に入りの文章をえらんだわけ</p> <p>(2) カードをフリップ(画用紙)に貼り, お気に入りの場面を絵にかいて完成させる。 【個人】</p> <p>3 フリップを紹介する。 【グループ】</p> <p>(1) 各自読む練習をする。</p> <p>(2) グループで交流活動を行う。</p> <p>ア 付箋紙によかったところをメモする。</p> <p>イ 友達の作品に付箋紙を貼る。</p> <p>4 フリップでの紹介活動で思ったことをノートに書く。 【個人】</p> <p>観点を明示しておき, その観点での自己評価を行う。</p>	<p>支援の手立て(○全体・個人)と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モデル作品(教師)やグッドモデル(児童作品)を掲示し, 本時の学習活動の意欲を高める。 ○ 学習の流れが児童にわかり, 主体的に活動できるよう板書に明示する。 ○ 観点別カードを色別により, どのカードを記入するかわかりやすくする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじを書くのがわからない児童には, ○○(主人公)が○○する話と短くまとめるよう助言する。 ・ お気に入りの文章を選んだ理由を詳しく書くように助言する。理由がうまく表記できない児童には, 個別に発問し, おもしろかったところをくわしく思い出すように助言する。 ○ よくできている児童には, 称賛の声をかけ全体によかったところを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><読む能力></p> <p>自分の選んだ本の好きなどころについて, 自分の知識や経験, 読書体験と関わらせながら読み, 本についての自分の思いをフリップにまとめ紹介している。(活動の様子)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介の仕方がうまくできない児童には, フリップを見ながら順番にカードを紹介するように助言する。(Cに対する手だて) ・ 自分の思いを適切に紹介できている児童には, 全体の場で紹介し, 交流活動のモデルとして称賛する。(Aに対する手だて) ○ 楽しく活動ができ, 夏休みの読書活動への誘いとなるような活動になるような雰囲気作りをする。 ○ 交流活動の時間が十分に確保できるようにすることと紹介の仕方がわかるように黒板に明示しておく。 ○ 発表はカードを見ながら紹介するが, コミュニケーション活動であることを考え話し方や聴き方について, 指導をしておく。 ○ 今日の学習を振り返り, 自己評価を観点に沿って行う。グループで聞いた友達にもよかった点が相互評価できるようにしておく。

7 成果と課題

(1) 学習環境の整備

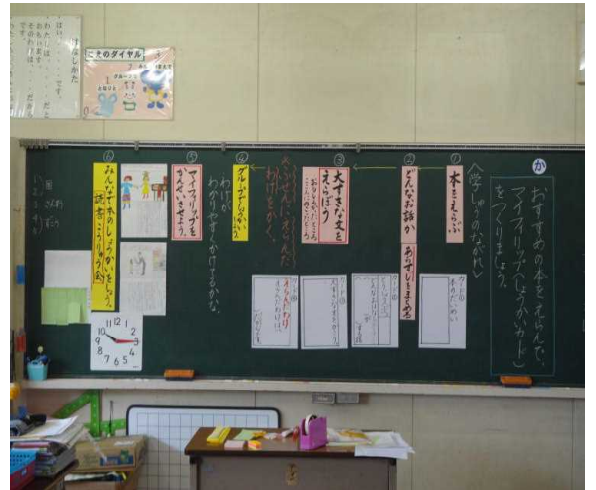
1時間の授業時間の流れの見通しを、教師だけでなく児童がもつことが大切である。学習活動の見通しをもつことにより、児童は自ら考え活動し、主体的に活動に取り組むことができる。また、その時間の学習課題と身に付けたい力（ゴール）を明確に捉え、学習活動に参加することができる。

そこで、板書には学習活動が明確になるように工夫した。1時間の流れを ①目標（課題）②一人で ③グループで ④みんな ⑤振り返り・次時の課題 とわかりやすいように工夫した。（資料1-①）

学習の流れや学習形態を明示することにより、次は何をするかが児童自身が変わり、スムーズに活動ができた。

また、本時のモデル文の提示や語彙を拡充するための拡大資料を準備し、書く活動の充実を図る工夫をした。

（資料1-②・③）



資料1-①学習環境(学習過程の明示)の整備



資料1-② 拡大資料(語彙力の拡充)



資料1-③ 児童の作品掲示(環境整備)

(2) 学習形態の工夫

子どもたちの学習活動をより主体的・協働的なものにするために、学習形態を工夫することが大切である。

そこで、児童に様々な学習形態を経験させ、特にグループワークのよさを実感させていきたいと考えた。

日頃から様々な場面で交流活動の機会を設定し、課題解決の経験を積み、色々な考えや友達のよさを学び、友達から学び合うという学級の雰囲気作りに心がけ、様々な教科等で継続的に実施することにより、学び合う姿が見られるようになった。

ただし、交流活動では、観点を明確にしないと発表と感想のみで終わってしまうため、交流活動の観点を教師が明確に児童に伝え、行う必要がある。



資料2 学習形態の工夫(グループ)

(3) 学校図書館との連携

子どもが主体的に学びあうためには、自分の考えを発言し、協働的に話し合うことができる素地を作る必要がある。そこで、知識の宝庫である学校図書館を利用した。本校は大規模校のため、図書館利用が週1時間と限定されている。定期的に利用し、また休み時間等利用するように呼びかけた。

学校図書館の利用により、児童の興味関心を高め、児童の活動をより深化させることが可能になり、学びの質を高めることができた。児童もたくさんの本を楽しんで読む姿勢が見られるようになった。

(4) 思考や判断を可視化する記述力の育成

ア 読みの一元化による思考の可視化（フリップ作り）

読みを一元化するとは、子どもの読みを1枚のワークシートや作品に書き込めるようにし、自分の読みを確かめることである。ここでは、フリップ作りを通して、読書紹介の観点を明確にし、理由づけができるよう工夫した。（資料3）

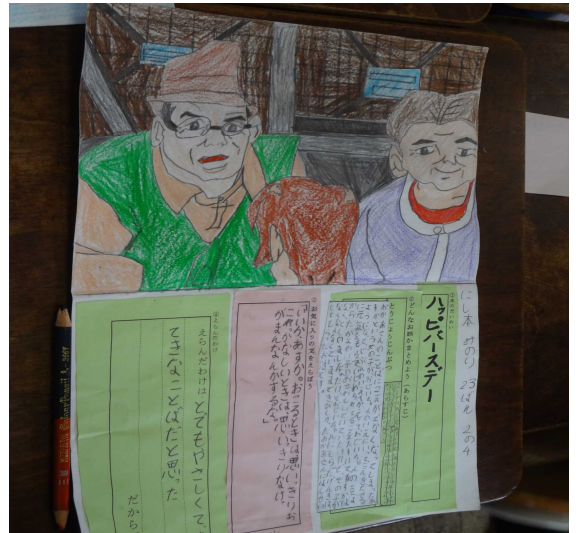
イ 交流と評価の重視（付箋紙の活用）

記述力の育成は、丁寧で適切な他者評価が必要である。そのために本単元では「フリップ作り」という読書紹介カードを作成して交流活動を実施した。情報を発信して相互評価したりしてさらなる学習への意欲を喚起した。

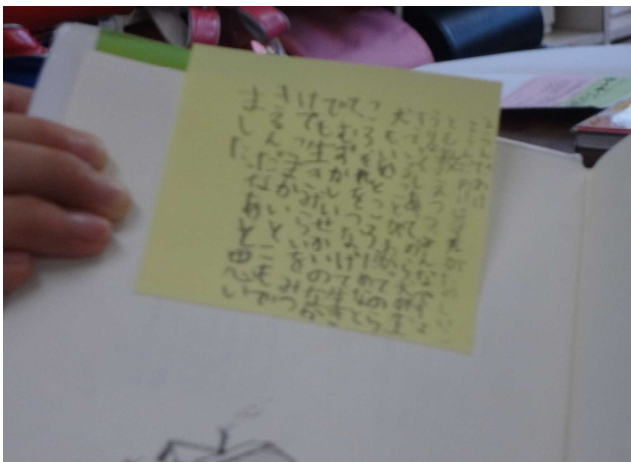
また、相互評価には付箋紙を利用し、友達の作品のよさを記述した。付箋紙に書く活動を通して、交流活動の可視化を図った。

友達からの付箋紙を読み、うれしそうな表情やじっくりとコメントを読む姿が見られた。

課題としては、相互評価の表記が内容ではなく、声の大きさや発表態度、文章量についてコメントした児童もいたので、評価の観点を明確にできるよう指導にあたりたい。（資料4）



資料3 思考の可視化(フリップ作り)



資料4 交流と評価の重視（付箋紙の活用）



資料5 総合的な言語能力の育成

(5) 双方向の総合的な言語能力の育成

学び合いの中核となる「対話」は、他者と積極的に交わろうとする態度を基盤にし、言葉を通して自己の見方や考え方を高めることができる。特に読書活動を基盤とした学習活動は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動の有機的な関連づけができる。本単元では、「フリップ作り」という書く活動を取り入れ、総合的な言語能力が育成できるよう試みた。しかし、書く活動においては、個人差や語彙力の不足など、児童の実態に応じた言語力を身に付けさせるための指導が必要であると感じた。（資料5）

II 授業を行う上での課題について

- 1 学習課題の設定
- 2 交流活動の位置づけ
- 3 書く活動の個人差への対応
- 4 書く活動を支える言語事項の指導の在り方(語彙力の育成)